

我孫子市マスコットキャラクター
「手賀沼のうなきちさん」

我孫子市が小中一貫教育で目指す子ども像

- 「ふるさと我孫子」を愛し、誇りに思う子どもも
- 確かな学力を身につけ、夢を持ちチャレンジする子どもも
- 自分に自信を持ち、自他を大切にする子どもも

布佐地区キャラクター
「ふさだ だしお」

小中一貫オリジナルカリキュラム授業実践の様子を紹介するうな～！

「こほく・あらきふれあいカリキュラム」～湖北小・1年生「秋まつり」

湖北小学校の1年生で、湖北中学校区オリジナルカリキュラム「こほく・あらきふれあいカリキュラム」の一環として、生活科の学習が行われました。地域の保育園を招いて、秋まつりを開催しました。

秋まつりは1年生実行委員の「一緒に秋を楽しみましょう。」の挨拶でスタートしました。企画者の1年生も、招かれた園児たちも、これから始まる秋まつりにわくわくしています。お店役の1年生は各ブースへ準備に行き、エスコート役の1年生は園児たちの手を取って案内します。



秋まつりには8つのブースがありました。『落ち葉釣り』『どんぐりマラカス作り』『まつぼっくりツリー』『どんぐり入れ』『まつぼっくり的あて』『まつぼっくりとどんぐりの○×ゲーム』『どんぐりトロ作り』『まつぼっくりけん玉』です。ブースがたくさんあり、園児はどこで遊ぼうか大興奮です。1年生は園児に希望を聞きながら、優しくエスコートします。園児が上手に落ち葉を釣ると、1年生は「やったね、おめでとう！」と喜び、けん玉が成功すると「おお、すごいね！」とたくさん褒めました。どんぐりトロ作りでは「ここに目と口を描いてみよう。」とアドバイスしたり、マラカス作りでは「手本を見せてあげるね。」と実際に作りながら教えてあげたりと、一生懸命に自分の役割を果たしていました。楽しく遊んだ園児には「景品だよ。」と手作りの作品をプレゼントし、精一杯のおもてなしをしました。

最後に実行委員から「また会えるのを楽しみにしています。」と挨拶があり、楽しい秋まつりは大成功に終わりました。幼保小の交流の場を設定したことで、強い目的意識と相手意識が生まれ、活動が大変主体的となりました。カリキュラムの名前のとおり、ふれあうことで大きな学びを生み出すことができています。

「こほく・あらきふれあいカリキュラム」～新木小・2年生「町のキラリをあつめよう」

新木小学校2年生生活科で湖北中学校区オリジナルカリキュラムの授業が行われました。「わたしの町はっけん」の单元で、『町探検に行って見つけた素敵なことを伝え合う』が授業のねらいです。

黒板には、学区の地図が大きく掲示されており、そこには、見つけた施設やものなどが書き出されていました。担任の先生より「今日の学習問題は『町のキラリをあつめよう』です。」と聞くと、子どもたちは「キラリ！？」「楽しそう！」と目を輝かせて、学習への意欲が満々でした。はじめに、グループごとにどんなキラリ（素敵なこと）を☆カードに書こうか、友だちと相談し始めました。子どもたちのワークシートを見てみると、そこにはインタビューしてわかったことや見つけたことが、びっしりと書かれていました。充実した町探検になったことが感じられました。書くことが決まるといつも配付された☆カードに、どんどん鉛筆を走らせます。みんなが書き終えたら、いよいよ伝えあう時間（発表）の開始です。

グループリーダーを中心に、一人一人がキラリを発表していきます。聴いている子どもたちからは、「なんだ！」、「見に行ってみたい！」といった声があがり、興味深く聴いている様子が見られました。全グループの発表が終わると、黒板に掲示してある地図は、子どもたちが見つけた町のキラリでいっぱいになりました。



单元の終わりには、写真や絵を用いて、より詳しく、より分かりやすい発表方法の工夫をし、お世話になったお家の方や施設の方を招待し、学習のまとめを発表するようです。地域の特色を生かし、自分たちの生活は様々な人や場所と関わっていることに気づき、伝え合うよさや楽しさを味わえる授業となりました。